伊野コミュニティセンター広報誌　第68号（R5.3月発行）

いのぼ～るの彼女

伊野－INO－ ～やって未来こい！ ENO暮らし2030～

いのぼ～る

発行：伊野コミュニティセンター
〒691-0072　出雲市野郷町492-5
Tel：(0853) 69-1526　Fax：(0853) 69-1530
E-mail：ino-cc@local.city.izumo.shimane.jp

伊野コミュニティセンターホームページ　伊野地区自治協会ホームページ　伊野地区自治協会Facebook　伊野地区自治協会Instagram

－伊野地区の人口－
（R5.2月末現在）
男性…　572人
女性…　623人
合計…1,195人
世帯数…420世帯

10人の卒業生へエールを！ 卒業おめでとう!!

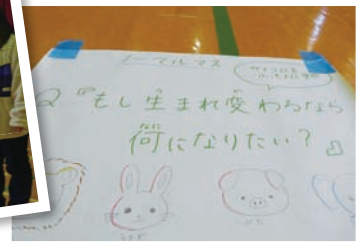
3/16

３月16日、伊野小学校にて卒業式が挙行されました。今年度の卒業生は10名。今回から来賓の皆様の参列も戻り、卒業生は在校生・教職員・保護者・地域の皆様に祝福され、６年間過ごした学び舎をあとにしました。４月からはいよいよ中学生。伊野小で過ごした６年間の思い出を胸に、周りの人への感謝の気持ちを忘れずに中学校でも頑張ってください。
またコミセンにも寄ってくださいね。

伊野ベーション 子ども×島大生×地区住民 －巨大スゴロク大作戦！－

参加者44名

2/23



今年度２回目の伊野ベーション。今回は伊野小学校体育館でスゴロクを開催。体育館の床にマス目を貼り付け、島大生手作りの段ボール製サイコロを子どもたちが投げ上げて、出た数だけ進みます。マスには「生まれ変わるとしたら何になりたい？」「将来の夢は？」などなど。子どもたちの夢、聞けちゃいました！ミニゲームマスでは、グループで力を合わせてお題をクリア。やっぱり伊野ベーションっていいよね！

やって未来こい！通信　続報

参加者26名

1/26 まちづくりセミナー開催

講師　NPO法人くらしアトリエ

「自分が住んでいる地域、環境、日々の暮らしを楽しむことで、地域を誇りに思う心が醸成される。するとどんどん地域が好きになる。地域にあるものを生かしながらやりたいことをやってみる。そんな人たちが増えるとまちづくりの原動力になる。」講師の栂慈子さんと今若麻希子さんからのお話に多くの参加者さんは感銘を受け、質問や意見が飛び交いました。

3/5 木綿街道の活性化に貢献「おひなさんぽ」に出店

木綿街道の活性化に貢献しようと、やって未来こい！ネット代表の山崎美吉さん（堂ノ本）を中心に伊野から4店舗が出店。Drip Yamasaki のハンドドリップ珈琲、麺処奏のパスタ、なごみの会のぼた餅、出商生にも協力いただいた ino.ti による小瓶アートワークショップ。天候にも恵まれ、人出も多く大盛況でした。関係者の皆さま、お疲れ様でした。

はじめまして ino.ti です！

こんにちは。三の谷町内の兼折治加（はるか）です。昨年、ino.ti（いのち）～中山間地域の未来へ～という団体を立ち上げました。「ino.ti（いのち）」とは、伊野地区から始まり生まれるものやことを意味しています。当初は「こどもマーケット」を開催する為に立ち上げましたが、その後他地区からワークショップの依頼があり、伊野地区に限らず他地区へも出かける機会が増えました。昨年は東地区、松江市玉湯地区、平田地区に出店し、たくさんの方へ物作りの楽しさを届けることができました。

こどもマーケットでは子どもたちの創作意欲や家族の幸福度を上げることができました。今年も新たに「やってみたい！」という子どもたちが加わり、新しいこどもマーケットを開催します。地区や学年を越え子どもたちにとっても、大人にとっても新しい一歩になると感じています。今年の「ino.tiこどもマーケット」は**5月14日（日）**開催です！

ino.ti メンバー3名のママさんたち
代表　兼折治加さん（中央）

ino.ti 玉湯イベント出店

参加者24名

3/10 空き家対策セミナー開催

講師 NPO法人出雲市空き家相談センター　本常　徹氏

空き家は早期発見、早期対策が重要。個人の問題ではなく地域の問題として捉え、関わっていくことが大事だそうです。また、空き家利活用を促進するためにも、将来今住んでいる家や土地をどうするか、日頃から家族や関係者と思いを共有したり話し合っておくことも大切とのこと。

来年度は伊野地区個別相談会を開催予定です。空き家問題を他人事ではなく誰もが自分事として捉え、住民みんなで一緒に考えていきましょう。

参加者300名超

10/2 Ino.ti～中山間地域の未来へ～子どもマーケット開催

古民家垂水（たるみ）にて ino.ti ～中山間地域の未来へ～主催による「こどもマーケット」を初開催。地区内外から総勢300 人を超える家族連れの来場がありました。これは「子どもの作ったものを世に出したい」という一人のお母さんの想いから実現されたものです。子どもたちはどんなお店を出すか、何が売れるのか、何円で販売したらよいか、どうやったらお客さんがたくさん来てくれるのか、など本番までに何度も考え試行錯誤し当日を迎えます。そしてお客さんと直接触れ合い、自らサービスを提供したりものを販売して収益を得ます。この一連の取り組みが子どもにどれほどの影響を与えるか…。そして、終わりは始まりです。子どもたちはもう次なるお店のことを自ら考えているのです。こんな経験をした子どもたちがどんな成長を遂げるのか、楽しみでなりません。

地域おこし協力隊
朝枝尚子（あさえだしょうこ）さん
連載 ―第５回―

朝枝＠協力隊の出雲伊野暮らし

【海あり県を楽しむ】

ウグイスの鳴き声があちらこちらから聞こえます。ソメイヨシノの開花が待ち遠しい季節になりました。

わたしはUターン以前の約20年、滋賀県に暮らしていました。島根の話をする前に、せっかくなので滋賀県のおすすめポイントもお伝えしたいと思います。滋賀県は日本の真ん中に位置します。名古屋や京都などの大都市圏にも近く、自然も豊かです。さらに歴史、とくに戦国時代が好きな人なら大興奮間違いなしの地域です。日本史の教科書に登場する土地や人物の名前が身近にたくさん溢れていることに驚きます。そして県面積の約6分の１を占める雄大な“琵琶湖”はまさに県の象徴。滋賀県民は本当に琵琶湖を大切にしていますし、誇りにされています。

ですが、私が滋賀県に住んでいて一番残念だったこと、それは“海がない“ことでした。生活圏に海があり、新鮮な海の幸が当たり前に揃う地域で生まれ育った人なら、きっとジワジワと響いてくる問題だと思います。島根県にUターンすると決めた時も、また海の近くに住めるということが楽しみでたまりませんでした。昨年も娘と一緒に何度も海へ通いました。近くに誰もいないのを確認してプライベートドッグランを楽しんだり、磯で貝を採ったり、釣りをしたり、海辺に自生する和ハーブを摘んで味わったり…。よっ得!?伊野いちでも新鮮な海の幸を買うことができます。それに何より美しい海の景色を見るだけで気持ちがすっきりとクリアになる気がします。きっと伊野地区に住まれている人なら当たり前に出来ることなのでしょう。ですが私にとって、そして娘にとっては、そんな一つ一つが未だにとても新鮮で嬉しいのです。

今年もまた山を越えて海へ通うことになりそうです。そして新しい楽しみが見つかりそうな予感です。2年目に入る伊野での暮らし、まだまだやりたいことが尽きません。

ベック多伎

海

和ハーブのススメ 3月

【春の花の代表“タンポポ”】

春先に鮮やかな黄色い花を咲かせ、その後はかわいい綿毛をつけるタンポポ。きっと野原で自生する植物の中で、最も名前の知られるものの一つではないかと思います。タンポポの黄色い花は春に咲くイメージですが、最近は一年中見られるようになりました。これは外来種のセイヨウタンポポです。とても繁殖力が強いので、今では在来種を見つけるほうが難しくなってしまっています。これは外来種のほうが種が軽く遠くまで飛ばせること、さらに受粉なしでクローンの種子をつくれることなどが理由のようです。

とは言え、在来種も外来種も同じように全草を利用できます。花はサラダやシロップ、葉はサラダや天ぷらに。日陰にある柔らかい葉の方が苦みが少なく食べやすいと思います。根を日干ししたものは生薬の“蒲公英（ほうこうえい）”生のままでも、ごぼうのようにきんぴらに出来ますし、炒って煮出せばタンポポコーヒーになります。家の近くで在来種のシロバナタンポポを見つけました。写真で紹介させていただきます。

シロバナタンポポ

タンポポパスタ

サスティナブルなエコライフを！みつろうラップをつくろう

参加者12名
2/16

はちみつを絞ったあとの巣を煮だして取り出したものを蜜（みつ）ろうと言います。蜜ろうには天然の抗菌作用や保湿成分が含まれており、リップクリームや化粧品の材料にも使われています。この蜜ろうを布に染み込ませたものを蜜ろうラップと言い、繰り返し使えるエコラップとして近年人気が高まっています。このたび多久和照美さん（三ノ谷町内）指導の下、この蜜ろうラップを手作りしました。普段のラップを蜜ろうラップに替えることで身近なことから地球に優しい取り組みをしたいと皆さんSDGｓに関心をもたれたようです。

（伊野地区環境推進協議会）

親子でいがもちをつくろう

7家族
24名参加
2/16

サンレイクにて開催されたわくわく体験講座「いがもちづくり」にてなごみの会の皆さんが講師を務められました。参加者の皆さんからは「楽しかった」「おいしかった」「郷土料理を知る機会になってよかった」という声が聞かれました。なごみの会の皆さんは今後も自分たちにできることを皆さんと楽しんでいきたいと意欲的でした。

なごみの会の皆さん

参加者へ指導する多久和喜代美さん

伊野児童館遊具撤去

児童館の庭に設置されていた遊具。老朽化に伴い長期間「使用禁止」の警告表示をしていましたが3月9日に撤去工事を完了いたしました。合わせて児童館前での車両取り回しがしやすいよう、砂場を東側へ移動しました。皆様には長期にわたりご不便ご心配をお掛けしました。

遊具撤去前

遊具撤去後

違いは強み。ちがいを楽しもう。 人権研修会

参加者37名

3/3

地域おこし協力隊の朝枝尚子さんを講師に招き、「違いを楽しむ」と題して人権研修会を開催しました。朝枝さんは自分の生い立ちやなぜ伊野地区に移住してきたのか、体験談をもとに日々感じたことなどをお話くださいました。そして生活していく中で自然や和ハーブに興味・関心をもつようになり、ひとつひとつ色や形、香り、感触も違うけれども、どれ一つ無駄なものはなく有用であることを例に挙げ、どんな物にも人にも価値がある、違いは個性である。違いを知れば強みがわかり、その強みを生かすことでより豊かな人生が送れて楽しいのではないか、と講話いただきました。参加者からも感想や質問が飛び交い、身近な視点から改めて人権について考える良い研修となりました。合わせて参加者の皆さんへ人権啓発グッズ（メモ帳）も配布しました。（伊野地区同和教育推進協議会）

Web会議対応パソコン導入

オンライン会議で良く使用されている zoom。このほどコミセンにも zoom 対応のパソコンが設置され館内で使用が可能となりました。住民の皆さんもご利用いただけます。ご希望の方はコミセンまでご相談ください。

歌唱クラブ「コーラス花みずき」 19年の活動に幕

平成16年4月に発足した歌唱クラブ。平田在住の小村先生にご指導いただきながら月1回、童謡や唱歌などを歌って会員の交流の場として活動しておられました。また、福祉施設や地区敬老会、小学校の卒業生へ歌の披露などもされ精力的に活動されていましたが、このほど3月9日をもって会を解散されました。クラブは解散となりましたがこれまで先生や会員同士、そして歌を届けた地域の皆さんと「歌」を通してつながった絆は一生ものです。皆さんこれまでお疲れ様でした。

伊野ふるさと探訪 Part31 ～番外編～

「神宮寺（じんぐうじ）」

三ノ谷町内の新宮神社の参道脇に小さな御堂が在ります。神仏混淆（しんぶつこんこう）の時代にはお宮の境内に仏様を祀る堂があり、これを神宮寺といいました。明治の初めに明治政府は神統によって国家の繁栄の思想として天皇を現人神（あらひとがみ）としました。そして神社はその格付けを行い、階級を付けました。一方で宮に仏堂は不要として廃仏運動が起こり、多くの御堂が崩されました。明治期に伊野村の助役をされていた大谷町内の岡（屋号：大多仁）家の日記帳に神宮寺の記録があり、圓通寺の住職が祀ったとありました。

（郷土誌研究会　常松 士郎 氏）

伊野郷土誌を読む会

毎月1回 第2木曜日　延べ196名参加

3年目の開催となる「伊野郷土誌を読む会」。新たなメンバーも加わり、西上町内の常松士郎さんを講師に4月から毎月15名程度の参加者が集い伊野の歴史について学びを深めました。3年間の集大成として2月には伊野検定を実施。3月には北浜地区へ視察研修に出かけ、許豆神社や風車公園、旧光中跡にあるカワハギ養殖場の見学もおこない、一行は学びと交流を深めました。

（自主企画事業　総務部）

クラブ・サークル参加者募集！

見学も可能です。おたずねはコミセンまで。

ひまわりの会　第２水曜日10:00から　会費要

介護予防に関する講座や健康体操など、元気で生き生きとした生活が送れるよう毎月楽しく活動しています。

初回　令和5年4月12日(水)10:00～11:00
（受付9:30から）　コミセンにて

歴史クラブ　第２木曜日9:30から　会費要

伊野はもとより周辺地域の歴史や文化について勉強会を開催しています。昔話にも花が咲き会員同士の交流の場にもなっています。

初回　令和5年4月13日(木)9:30～11:00
コミセンにて

令和5年度 伊野地区の主な行事予定

伊野地区町内対抗
ソフトバレーボール大会　6月18日(日)
伊野地区戦没者慰霊祭　9月10日(日)
地区民体育大会　9月24日(日)
伊野地区敬老会　10月8日(日)
山崎亮さん講演会　10月31日(火)
伊野地区文化祭　11月5日(日)

※現時点での予定です。
変更になる場合もあります。